

横浜開港祭で自衛隊をPR

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 松田辰雄）は、6月2日（金）、3日（土）の両日、横浜港大さん橋において、「第36回横浜開港祭」の一環として行われた護衛艦「たかなみ」の一般公開を支援した。

同大さん橋では、護衛艦による一般公開のほか、海上自衛隊東京音楽隊、陸上自衛隊第1音楽隊及び高等工科学校和太鼓部による音楽演奏会や、岸壁に開設した装備品展示コーナーにて、航空自衛隊第1高射群の支援を受け、地対空誘導弾ペトリオットの展示などを行い、2日間で延べ25,000人の来場者で大いに賑わった。

3日には、寛仁親王妃信子殿下もご視察に訪れ、同大さん橋ターミナル内で公演された東京音楽隊による演奏会のご鑑賞や護衛艦「たかなみ」での特別会食などが執り行われた。

また、護衛艦の入港に併せて、同地本主催の「護衛艦フオートコンテスト」も開催し、両日とも好天に恵まれたこともあり、横浜ベイブリッジや横浜開港祭のフィナーレを飾る花火をバックに、同艦艇をカメラに収める人の姿も多く見られた。

神奈川地本は、「今後も、集客力のあるイベントでの能動的な広報活動を実施し、自衛隊の真摯な活動をPRしていく」としている。



横浜市内で初めて展示されたペトリオットに興味を示す来場者たち

「よこすかYYのりものフェスタ」で自衛隊をPR

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 松田辰雄 1等海佐）は、6月10日（土）、11日（日）の両日、「よこすかYYのりものフェスタ」において自衛隊ブースを開設し、広報活動を実施した。

同フェスタは、横須賀市観光協会が主催し、鉄道や自動車、海上自衛隊の艦船など様々な分野の「のりもの」をテーマに開催されたもので、JR横須賀駅やショッパーズプラザ横須賀店頭広場、海上自衛隊横須賀地方総監部などの各会場でそれぞれ催しが行われた。

自衛隊ブースでは、ショッパーズプラザ横須賀店頭広場に開設された「自動車ゾーン」にて、第31普通科連隊の協力を得て、指揮通信車、11/2t救急車及びオートバイ（偵察用）を展示するとともに、ちびっ子迷彩服の試着体験及び戦闘糧食や南極の氷などの展示を行い、2日間で延べ17,000人の来場者が訪れるなど大いに賑わいを見せた。

また、ブースを訪れた来場者からは、「この車両の任務は何ですか」「これが災害派遣時に隊員が食べた缶飯ですか」「南極の氷はどのように入手したのですか」などの多くの質問が寄せられ、自衛隊の活動をアピールする絶好の機会となった。

神奈川地本は、「今後も、地域に根差したイベントに積極的に参加し、自衛隊に対する親近感の醸成に努めていく」としている。



迷彩服を着てバイクにまたがるちびっ子



戦闘糧食に興味を示す来場者たち